

大学出版

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク

THE ASSOCIATION OF JAPANESE UNIVERSITY PRESSES

*特集

大学出版部の編集を再考する

——第三四回日本・韓国大学出版部協会合同セミナー——

後藤健介

1

日韓で「編集するということ」を語り合う

金 鍾吉

4

未来の大学出版部がすべき19のこと

稲 英史

9

図鑑をつくる気持ち、読みたい気持ち、売りたい気持ち

*連載

中垣信夫

16

命の形―形の命 No.10

大学出版部ニュース 19



No. 109

2017.1

冬

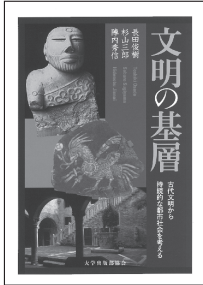


一般社団法人
大学出版部協会

大学出版部協会・ブックレット

大学出版部協会 発行／東京大学出版会 発売【2015年7月刊】

2014年5月に千代田区立立比谷図書文化館で開催された市民シンポジウム「文明の基層」(総合地球環境学研究所・京都大学学術出版会・大学出版部協会 主催／活字文化推進会議 後援)の内容をブックレット化しました。



長田俊樹
杉山三郎
陣内秀信

おさだとしき(総合地球環境学研究所名誉教授、神戸市外国語大学客員教授)
すぎやまさふろう(愛知県立大学大学院特任教授、アリゾナ州立大学人類学部教授)
じんないひでのぶ(法政大学デザイン工学部教授)

文明の基層

古代文明から持続的な都市社会を考える

A5 判・80 頁／定価(本体 1,200 円＋税) ISBN978-4-13-003152-3

古代都市のイメージは大きく変わりつつある。インダス文明の諸都市のゆるやかなネットワーク、中米の古代最大都市テオティワカンでの新しい発見。人はなぜ都市を作ってきたのか、その歴史的基層を中世ヨーロッパのヴェネツィアと比較しながら、改めて都市の魅力と未来への可能性を探る。大学出版部協会ブックレット第3弾。

〈主要目次〉

第一章 インダス文明：ネットワーク都市——中央集権的文明観を覆す(長田俊樹)

「大河文明」は本当か?—広大なインダス文明／インダス文字とインダス印章／草原の遺跡、海岸沿いの遺跡—大河から離れて／砂漠の遺跡の謎／「城塞」と「パスポート」—都市ネットワーク論に向けて／墓から見えるもの—格差の不在／砂丘が先か、文明が先か／インダス文明は大河文明ではなかった—農業と水害の視点／古代文明観を見直す—「穀物倉」と「アリア人侵入説」／文明の衰退について考える／ゆるやかなネットワークの存在／都市社会をどう見るか—中央集権的文明観からの解放

第二章 新世界最大の古代都市テオティワカン：英知の集積としての都市(杉山三郎)

閉ざされた空間の多様性／文明の萌芽／認知能力＝知恵こそが、文明の基盤をなす／中規模都市ができて始める／完全計画都市、テオティワカン／多くの人を迎える巡礼地として／暦と数の体系／「太陽のピラミッド」と「月のピラミッド」の二元性／墓は語る／古代人の交流—物を集めるネットワーク／文明の確立から崩壊へ—伝わり、つながる文明の諸要素

第三章 水都ヴェネツィア：交易都市から文化都市へ(陣内秀信)

水と共生する町、ヴェネツィア／逆・中央集権的構造都市—複雑に交差する水と陸のネットワーク／都市を解読する／交易都市から文化都市へ／オリент志向と柔軟性／分散的都市から統合的都市へ／なぜ都市に人が集まるか／城壁の無い町／都市モデル再考／川が結ぶネットワーク／水車の活用／考古学調査がヴェネツィアのイメージを変える／ヴェネツィアの食と産物のネットワーク／ラグーナは自然・環境・歴史の宝庫—文化都市から環境都市へ

特集＊大学出版部の編集を再考する

日韓で「編集するということ」を語り合う

後藤健介（東京大学出版会）

大学出版部の編集者が、学術書を書くとは、編集するとは何かをまとめた本が刊行され、大きな反響を得た（鈴木哲也・高瀬桃子『学術書を書く』京都大学学術出版会、橘宗吾『学術書の編集者』慶應義塾大学出版会）。二冊とも「ギョーカイ本」的な自己顕示欲は皆無だ。学術書をめぐり、著者、読者、大学など知的生産の制度、そして出版者との関係の随所にきしむ音が聞こえるいま、これらの本は、学術書の編集者の立場から、著者・読者への向き合いかたを編み直していききたいとする懸念の投げかけにも思える。

韓国の学術書の編集者たちも、全く同じ苦しさのなかで仕事をしている。三十余年にわたり開催してきた「日本・韓国大学出版部協会合同セミナー」では、ここ数年、少子化と競争の時代の大学の激変、新メディアへの対応、経営の困難などの問題が話し合われてきた。問題が日韓で同じなら、出版市場が小さい韓国がより深刻であり、韓国の同

僚たちの取り組みから、私たちは多くを学んできた。いま日韓で大学出版の編集を語りあったらどんな話が飛び出するか、二〇一六年九月二二日、「大学出版の編集を再考する」をテーマにした日韓セミナーは幕を開けた。

メインとなる報告は、いずれも各出版部のカラーを形づくってきたベテラン編集者によるもので、文章、レイアウト、著者や読者との出会いという、編集者が接する具体的な肌触りを起点に大学出版の経営も論じた発表だった。稲英史さん（東海大学出版部）と金鍾吉さん（慶尚大学校出版部）の発表要旨はこの『大学出版』に収録されているので、ぜひそちらをご参照いただき、以下、今回の日韓セミナーの他の話題を紹介したい（韓国側のもうひとつの発表、宋徳鎬さん（全北大学校出版文化院）の「大学、出版、そして編集」は、大学出版の編集と（博物館などの）「キュレーション」を対照させた興味深い問題提起だった）。

台湾と中国からのゲスト

今回の日韓セミナーには、台湾大学出版中心^{センター}と南京大学出版社からゲストをお招きした。南京大学出版社は東京大学出版会との共同出版事業に着手していて、今回はそのための来日でもあった。台湾大学出版中心の陳韋涵^{チェンウェイハン}さんには、台湾の大学出版事情についてご報告いただいた。韓国よりさらに出版市場が狭小な台湾の大学出版部は、やはり日韓と同じような問題を抱えつつも、日本語や英語による出版も活発に行い国際的に読者を求める姿は、日韓より先進的なありかたにも思われた。「国立大学出版部連盟」という組織が結成されたともいう。今後、日韓台の大学出版部協会との交流に期待が示され、今回の台北国際図書展における「連盟」ブースに日韓の書籍を展示することになった。

特別展示「韓国の大学出版部」

急いで付け加えるのは、今年の日韓セミナーは東京国際ブックフェアとの併催で、メイン会場も東京ビッグサイトの会議室であったということだ。理事長・黄甲淵^{ファンカプヨン}さん（全北大学校出版文化院長）以下、韓国大学出版協会の代表団一八人のみなさんは、この東京国際ブックフェアにおける日本大学出版部協会のブースで、我々が出版している主要な本を全て見ることができるわけだ。今年はここに「韓国の大学出版部」という展示コーナーを設けた。来日した出

版部の代表的な書籍を陳列し、出版部を紹介するパンフレットを置いたこの展示は、この二年、ソウル国際図書展における韓国大学出版協会のブースに日本大学出版部協会の本を展示してくれていることへの答礼でもある。ソウルでは我々の本を約二〇〇点陳列してくれているので、それに比べればずいぶん小さなものだが、この展示は今後、全六校の韓国側の全加盟出版部の本を集めて（加盟出版部数は日本の倍）、日本国内の大学図書館などに巡回展示をさせる予定である。「韓国にもこんな良い大学出版があるんだね！」と多くの方に驚いてもらおうと思っている。

「本とアートの東京散策」

日韓セミナーを日本で開催する年には、これまで京都や奈良などの日本の歴史を感じられる都市、諏訪や富山など特色ある地方都市を会場にしてきた。韓国側には来日経験のある方も多く、「東京でいまさら観光も」と思っていたが、韓国側協会の国際担当・崔相根^{チェサンゲン}さん（啓明^{キョウメイ}大学校出版部）のアイデアで「本とアートの東京散策」にお連れすることにした。二二日の朝、代官山の蔦屋書店に始まって、恵比寿の東京都写真美術館と書店「ナディフ」、六本木・乃木坂地区では、森美術館、サントリー美術館、新国立美術館と三手に分かれて見学した。私はサントリー美術館で開催中の「鈴木棋一^{キイチ}展」をご案内したが、江戸後期の琳派を代表するこの画家はある種の「出版者」でもあって、いまで

いう「エディトリアル・デザイン」に近い展示物も多かった。棋一には彼の時代のメディアとその流通があり、彼のアートもその中でこそ現象した。韓国の方と、「エクスカリションまで編集論とは、我々もまじめだね」と笑いあった。

韓国の編集者に一番印象に残ったこと

二三日夜、ほぼ日程を終えた日韓台の参加者は、交流晚餐会で議論の感想を話し合った。韓国の方に一番印象的だったことを訊ねてみたところ、何人かが「初日に訪問した東大出版会」、正確に言えばその専務理事で、日本の協会理事長・黒田拓也さんの机だと答えた。ご本人の許可なく暴露するが、この机には経営書類のほか、自身で担当する本の校正刷が積み上がっており、失礼ながら美観と形容するには躊躇ある。理由を尋ねると「トップ自らが原稿にまみれて編集の仕事をしている、一出版部が一つの出版チームとなって良い本をつくらうとしている様子」が素敵だった

から」ということだった。

セミナーは来年韓国で開かれ、さらに「語りきれなかったこと」を産みだして継続していくだろう。「大学出版部の編集とは何か」に結論はなく、編集者は常になにかを投げかけ応えることをやめない。だから日韓セミナーにも終わりはない。喜ばしい語らいはずっと続いていくだろう。

戦後歴史学

という経験

安丸良夫

四六判・本体2200円

民衆思想研究を中心に歴史学の可能性を追求し続けた著者が、時代の転回を見すえつつ遺したメッセージ。

教育劣位社会

—教育費をめぐる世論の社会学—

矢野眞和・濱中淳子・小川和孝

「教育にお金をかけない国」のメカニズムに「世論」という切り口から迫る、画期的調査の分析と提言の書。

四六判・本体2500円

国際機構論講義

最上敏樹

A5判・本体3200円

国際機構はなぜ生まれ、どんな意義があるのか。その存在を歴史的かつ理論的に読み解く定評ある教科書。



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋
(定価は表示価格+税)

<http://www.iwanami.co.jp/>

特集＊大学出版部の編集を再考する

未来の大学出版部がすべき19のこと

キムジョンギル
金鍾吉 (慶尚大学校出版部)

編集者と編集思考

編集者の役割に対する認識が変わってきている。よい本を作りさえすればよく売れる時代はすでに過ぎ、本をよく売らなければならない時代が到来したためである。

今の時代の編集とは、知識と情報の新しい使い方を作ることである。それが本になったり、Webコンテンツになることもあれば、電子書籍となることもあるし、様々な映像にもなりうる。リテラシーを販売する事業として、パービジネスからコンテンツビジネスに転換しているのがある。世界最大の学術出版社の一つ、シュプリンガー・ネイチャーの最高経営者ニルソン・ピーター・トーマスは、出版は二〇四〇年頃には完全に知識サービス産業に転換されると予測している。

では、大学出版部の編集はどうあるべきで、編集者はど

のような役割を果たすべきなのだろうか。

これから大学出版部の編集実務

①編集者は、原稿(コンテンツ)を生産する人である。編集者の役割で最も重要なのは原稿を生産する能力である。大学からの支援が減り、学術書市場が縮小している状況で、大学出版部は独立して生きる力を持たなければならない。学内の教員だけでなく、外部でも著者を発掘して優秀なコンテンツを生産するのが大学出版部編集者の重要な仕事となるであろう。主導的な企画のコンテンツ、大学というアカデミーに合わせたコンテンツ、地域の文化というコンテンツ、さらに新しいビジョンを提示するコンテンツなど、様々な試みからの生産活動が必要である。

②「教材」を基盤に、「学術書」を本領に、「教養書」で地平を広めよう。教材出版を活性化させて、大学出版部を

テクノロジーは 貧困を救わない

外山健太郎 マイクロソフト研究所の実践が生んだ解は《人そのもののアップグレード》だった。B.ゲイツ推薦。松本 裕 訳 ¥3500

下丸子文化集団とその時代

一九五〇年代サークル文化運動の光芒

道場親信 誰もが詩を書き、ガリ版の雑誌をつくった。東京で活躍した下丸子文化集団から見える、もう一つの戦後史。¥3800

ブラジル日系移民の教育史

根川幸男 近代化の過程で越境した日本の教育制度、変容、融和、文化再創造を緻密に辿り異種文化が交錯した歴史を描く。¥13000

建築の前夜

前川國男論

松隈 洋 日本人初のル・コルビュジェの弟子となったモダニストの前半生、敗戦まで。日本近代建築史を塗り替える論考。¥5400

治安維持法の教訓

権利運動の制限と憲法改正

内田博文 帝国議会記録と大審院判例から制定と運用過程を解明。共謀罪等が招く国民統制システムを刑法学から描出。¥9000

民主主義の内なる敵

トドロフ シリア内戦、IS、難民、テロ。「進歩、自由、人民」というリベラルな理念がもたらす危機とは。大谷尚文 訳 ¥4500

映画の声

戦後日本映画と私たち

御園生涼子 大島渚からメロドラマ、実録やくざ映画、角川映画まで国家の周縁に響く声を感じ取る硬派で繊細な映画論。¥3800



東京文京本郷
5丁目32-21
tel. 3818-0131 fax 3818-6435 (税別)
http://www.msz.co.jp

みすず書房

④コンテンツを盛る器は多様である。我々は紙の本に慣

従来の編集は、著者やコンテンツそのものの価値を極大化し、付加価値を創出する方式だった。それに対して今は、コンテンツがマルチメディアの中心になり、創造的で自由になることが核心である。この変化を読み取り、単に本という製品を作る編集者ではなく、③コンテンツのあり方すべてを企画して編集する企画者が望まれているのである。

⑤本の時代」「韓国語」二〇一二年)。

一冊の本が扱う範囲は次第に細分化されているが、それを統合的に説明したければ、十分な事例を盛り込み、ストーリーテリングの手法を用いればよい(ハン・ギホ『新しい本の時代』)。

しつかりした基盤の上に立てる必要がある。しかし、教材出版だけに終わるのであれば、大学出版部は社会的役割を果たさないことになる。学術書の市場はますます苦しくなっているが、単純に論文を集めた「学術印刷物」ではない、出版部の編集技術が具現化された「学術書」を作って読者のもとに届けなければならない。

れすぎている。コンテンツを盛る器もまた本がすべてであると考えてきた。クレイグ・モドは『ぼくらの時代の本』(韓国語)二〇一五年)で「形を問わないコンテンツはデジタル形式に移行する、明確な形を伴うコンテンツはiPadと紙の本の二つに分かれる」と述べている。大学出版部の刊行物はどうか。韓国外国語大学校出版文化院のデジタルコンテンツの出版がいい例で、学術書や専攻の教材の場合POD(プリント・オン・デマンド)を積極的に取り入れている。

また、⑤様々な出版モデルを考えてみよう。学術分野をデジタルコンテンツ向けに作ること、「NAVER(大手ポータルサイト)」などにコンテンツを提供する例もある。

⑥個別の本の生命力を育てよう。教材で得る収益で、学術書と教養書の赤字を埋める従来の方式から、本一冊一冊が収益を上げることのできる新たな法則を作らなければならない。シリーズ本は、それ自体で一つの収益構造として認識しなければならない。編集者は、個別の本が収益を出

せる方法を絶えず求めて最大化させなければならない。

⑦読者への多様なアプローチが必要である。まず基本に忠実になろう。プレスリリースや配本、書店マーケティングはその威力が弱くなってきたにもかかわらず、依然として無視できない。インターネット書店のレビュー、詳細項目に本の情報を十分に書こう。もちろんメディアの放送作家やプロデューサーとも連携し、本が出る前の企画段階で読者と共感できるメディアに紹介文を載せなければならない。新聞やオンラインメディア、ブログ、ブッククラブ、ホームページなど、著者の文章が読者に事前に知らされなければならない。

大学出版部は、⑧新しい著者を確保しなければならない。いつのまにか著者の重要性を忘れてはいないだろうか。与えられた原稿だけでなく、出版部が先んじて企画しよう。

出版部の企画で著者と交渉し、原稿ができあがり、編集されて読者の手に本が届いたとき、真の出版になるであろう。

⑨著者ネットワークを築き、読者ネットワークを活性化しよう。学内の教員はいうまでもなく、プログラムやキャンペーンなどを通じて地域の著者を養成しよう。彼らを大学出版部を中心に集め、地域の出版文化を築こう。

大学出版部の力が最も発揮できるのは人的ネットワークである。数千人に及ぶ教職員と数万人の学生、数十万人になる同窓生や数百万人に達する地域住民が我々の読者である。学内での図書展示、イベント、学内サイトでの広報、

講演会、地域の読書会、ブック・カフェ、地域SNSの会、図書館などを活用すれば、読者ネットワークは広がる。

欧州や米国では、本が出版される六カ月前からマーケティングを開始せよと言っている。本が出る前に十分に検索値を増やし、その本についての情報を作っておかなければ、本が発見されても購買にはつながらないのである(ジャン・ウンス「本の発見性をどのように確保するのか」『企画会議』四〇二号「韓国語」)。内容の質だけで勝負することはできない。いかに読者に発見され、早く、多く近づくことができるか。⑩これからは本の始まりから読者に直接近づいていかなければならないのだ。

⑪本だけ作って、本だけ売ろうとしてはいけない。私は日本の九州で、驚くべき経験をした。家具店や香水店に、商品に関連する本が置いてあったのだ。MUJI BOOKSとの出会いは衝撃的であった。マルチ・パッケージ・ストアの形で本が売れるならば、コンテンツの編集も変わらなければならない。新しい「提案する力」が必要だ。

⑫書店の変化に注目しよう。書店の役割が縮小されたのは事実である。それでもまだ本の多くは、オンラインであれ、オフラインであれ、書店を通じて読者に届く。最近の独立系書店、日本の蔦屋書店、MUJI BOOKSは、ライフスタイルを主導する書店である。編集者は「それぞれの顧客に高い価値を付与できる商品を探し、選択し、提

案する人」(前掲『出版の未来』)、すなわちコンテンツのキ
ュレーターとして生まれ変わらなければならない。

一方で、⑬書店とはちがう読者との新たな繋がり方が必
要である。読者とともに体験できる場所はどこか、共有し
やすいコンテンツは何か、共有活動の設計はどうするのか。
ソーシャルメディアの構築と活用、コンテンツ開発の方向、
事業モデル自体を革新しなければならない。

そもそも⑭大学出版部の読者は誰か。大学出版部は大学
生より若い読者に関心がないが、地域の中学校、高校、小
学校の児童や生徒のための本を作れないだろうか。一つの
コンテンツを様々な形にするOSMU (One Source Multi
Use) も重要だが、一つのコンテンツを様々な読者層に合
わせて構成して編集するのも必要に思える。成均館大学
出版部の「青少年シリーズ」がよい例である。

⑮大学出版部は、地域とともにあり、地域出版の中心に
ならなければならない。韓国には現在十数の地方出版社が
あるが、ほとんどが書籍の出版を行っていない。であれば、

大学出版部が、地域の歴史、文化、人物、環境などのコン
テンツで、地域の学校のための教材制作、地域住民とともに
出版事業などを行い、地域社会に貢献しよう。例えば、
韓国出版文化産業振興院や自治体の各種支援プログラム、
出版支援基金創立事業、公共図書館の図書購入、各機関の
地域コンテンツ支援事業などに積極的に関わるのだ。
地域での出版活動は、米国の大学出版部でも事例がある。
米国のネブラスカ州とオクラホマ州立大学の出版部の場合、
地元の歴史分野に関して価値のある本を地道に出すことで、
発展を成し遂げた(アンドレ・シフレン『情熱の編集』[邦訳
『理想なき出版』柏書房])。

⑯大学出版部の全国組織を積極的に活用しよう。本の販
売競争は次第に激しくなっている。競争が激しいところに
飛び込んで跡形もなく消えるよりは、大学出版部だけの市
場を考えなくてはならない。韓国というと、韓国大学出版
協会と、例えば嶺南地域^{ヨナム}「慶尚道」の大学出版部協会など
の組織を活用することが挙げられる。編集者会議、各分野

新 刊 案 内

農村景観の資源化

中国村落共同体の
動態的棚田保全戦略

広西壮族自治区龍脊棚田を例に、農村景観を動態的に保全できるか、
山間地農村の発展形態をどのように模索できるか考察。

菊池真純 東京大学教養学部特任准教授 A5判 三三四頁 本体 〇六〇〇円

中国農村の集住化

山東省平陰県における
新型農村社区の事例研究

集住化という最近の動きが農村の構造と農民の生活意識にどんな変
化をもたらしたのか、まさに進行中の事象を通して解明する。

小林一穂・徳川直人・何淑珍・秦慶武 他著 本体 八四〇〇円

近世日本の開発経済論と国際化構想

本多利明の経済政策思想
天明飢饉・ロシア南下などへの対処として国際社会の中の日本を意識
した構想が民間サイドから出現し始めた歴史的意義に迫る。

宮田 純著 菊池真純 東京大学教養学部特任准教授 A5判 二八〇頁 本体 二八〇〇円

ハワイ日系社会ものがたり

戦中の「ホノウリウリ収容所体験、戦後混乱期の「勝った組」、日本語放
送の裏話など」移民列伝」から芸能史まで貴重な証言。

御茶の水書房

〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20
電話 03-5684-0751
http://rr2ochanomizushobo.co.jp/

別の集会、編集マーケティング会議などを通じて全国に張り巡らされた大学出版部組織を積極的に活用する。地域単位のコンテンツを全国的に結んで流通網を確保するのだ。

大学図書館や公共図書館への販売事業、図書館、博物館、自治体や企業などとともに行う出版事業、図書展などに協会として携わったり、地域の書店に協会連合の売り場コーナーを設置することもできる。広告事業などで大学出版部だけの独自のマーケティングを形成しなければならない。

⑰出版決定者と編集者は各々所定の位置に。編集者に編集方針決定権と出版書籍選定権があるだろうか。出版の方向を決めるとき、読者の価値より、財政支援や政策に依存しすぎているだろうか。出版書籍選定の原則と基準は明確であるのか。原稿検討など、編集者の意見が十分に反映されているのか。出版を決定する委員会では、教材と学術書、教養書は区別して選定する。教材は受講人数を中心に、学術書（もちろん、出版の価値を優先するが）と教養書は予想販売部数と著者の前作の販売実績を基準として発行部数を決定するのが基本である。収益主導型、行政主導型ではなく編集者が主体性を維持する分権化された基本体制が必要だ。短期的な利潤を出すより著者を尊重し、出版部の歴史を尊重することから編集は出発する。

⑱大学出版部の編集の決定権と編集技術（編集力）を強化しなければならない。価値ある本の出版の前提条件は編集権と財政の独立である。教材と学術書は大学出版部から、

教養図書などは別ブランド（インプリント）で特化する。冒険的な分野の本を出版したり、価値のある絶版図書を復刊したり、翻訳されるべき本の出版などをしっかり検討する必要がある。

最後に、⑲編集者は革新しなければならない。本を作る職人でありながら、コンテンツの流れと方向を設定する卓越した企画家で、読者中心の価値を実現するマーケティング的な判断力と実践力を兼ね備えてはじめて、今日の編集者といえる。大学出版人の全員が自分の分野における専門性を備えなければならない。それぞれ専門性を備えた人材が対等な関係で、自由と協業の方式で組織の発展を導いていこう。

再び編集を考えながら

大手出版社とは異なる大学出版部の領域は確かに存在する。大手出版社が取りこぼしたパンくずを拾い集める理由はない。我々には我々の道がある。大学にどのくらい貢献するのか、収益をどれだけ上げられるのかを重要視しつつも、出版と編集の意義を再び考えなければならない。

実験的で、知的で、価値があり、感動的な本を作り出すことが大学出版部の課題である。たとえ少ない部数の本でも、読者に近づくための行動だけが必要なのだ。規模と資本ではなく、アイデアと情熱で団結し、小さくても強い個性のある大学出版部を望んでいる。

特集＊大学出版部の編集を再考する

図鑑をつくる気持ち、読みたい気持ち、売りたい気持ち

稲英史
(東海大学出版部)

図鑑とは、生物の分類体系に従って掲載種を配列し、図や写真と対応する解説を付け、多様性を体系的に理解する書籍であると定義されている。私が編集している図鑑は定義そのもので、分類体系に従って「写真・図版」があり、その生物に関する「解説」がある、体系的なつくりになっている。分類体系にもとづいて原始的なものからより進化したものへと並んでいるので、ページをめくれば、その生物の進化がわかるようになっていく。今では、子ども向けの学習図鑑なども分類体系に則って編集されることが多くなっている。だから、普段めつたに見られないような生物から始まることもある。人気者のカブトムシや知名度抜群のマグロがトップを飾らないときは、こんな理由が隠されている。

編集方針は、最新の系統分類学にもとづく生物多様性情報を網羅すること、「似る」・「同じ」・「違う」を判断でき

る正確な情報を提供すること、実用に耐えうる「使える図鑑」をつくることである。図鑑の編集に当たっては、まずは客観的なものづくりに徹する。本の構成や装丁などの全体像を描き、コスト、売上目標と販売活動などを含め、著者らと綿密な打合せを繰り返し、築き上げていく。図鑑の紙面は実用性を最優先し、シンプルに、本文などを無駄に彩り飾ることはしない。

よく、どの辺りまでの最新知見が掲載されているのですか？ という質問を受けることがある。実際、図鑑は刊行された時点では、すでに最新の知見ではない。刊行の半年前くらいまでの知見が掲載されている。新しい生物は次々と発見されており、日々多様性情報は書き換えられている。とても紙メディアでサポートはできない。いずれ図鑑は電子化によって日々最新情報に更新され、データベースとして仕上げがなされる日が来るだろう。

図鑑をつくる気持ち

荒俣宏は『図鑑の博物誌』の中で、十五世紀初めの鄭和によるインド、セイロン、紅海、アフリカまでの大航海について語っている。

この航海の目的が、財宝を手にいれ貿易を行なうこととのほかにも今日でいう「博物学調査」すなわち各地の動植物採集研究をも含んでいた点を、強調しておかなければならない（中略）冒頭に鄭和の大航海の逸話を書いたのは、あらゆる博物学愛好家が終生変わらずに抱きつづける夢について語りたかったためだ。それは、未知の世界を巡り、見たこともない動植物を探る冒険航海へでること。唯一それだけが、ナチュラリストのあこがれる夢なのである。いったい何がかれらをそんな冒険に駆りたてるのか？ その理由はいろいろと考えられるが、最も重要なのはやはり、「地球に共存する生きものたち」の完璧なカタログをつくりたいという欲求ではなからうか。

（荒俣宏『増補版 図鑑の博物誌』集英社）

「地球に共存する生きものたちの完璧なカタログをつくりたい」。まさに荒俣は言い当てている。研究者にとって図鑑は、「ある場所」、「ある時点」に「どのような生物がいるか（いたのか）」を記録し、伝える媒体のひとつである。彼らは地球上の生物を網羅し、正しく同定ができる図鑑を

つくりたいと望んでいる。

一献傾けながら、研究者と話していると、『ビーグル号航海記』と『ダーウィンの進化論』を話し出す。さらに自らの科学的「航海」や「冒険」を熱く語る。彼らは今も、世界の様々なフィールドに未知の生物を求めて航海をしている。生き物のためなら長い道のりも厭わない。極限の環境の中で採集を繰り返し、顕微鏡を覗き続ける熱意と体力はすごいなどと感心していると……、世界で初めての図鑑です、より多くの生物を最新知見により網羅します、この図鑑に敵うものはありません、英文解説も入れて、助成金を獲得します……と続ける。

編集者が著者の術中にはまった、やられたと思う瞬間でもある。我々の関係は口説き上手と口説かれ上手の関係なのだと感じる一瞬でもある。編集者も読者に生物に関する最新情報を提供したい、世界に冠たる図鑑をつくりたいと思っている。また、著者との出会いや生物の未知の世界を楽しんでいるともいえない。図鑑をつくる気持ちとは、「知」と「情報」を残したいということであろう。

図鑑から学べることは、種の多様性や生物の色彩や造形の美しさである。私も子どもの頃、雑木林のクヌギにはどういう虫たちがやってくるのか、川や海にはどうい生物が棲んでいるのか、などを図鑑から学んだ。図鑑は生物多様性を体験・追体験させてくれる。また生物への視点や認識を大きく変えてくれる働きがある。私の親しい魚類学者

は、図鑑により「カタカナと漢字を学んだ。フィールドで生物を確認する楽しみ、行けない場所、そこにどんな生き物がいるということを想像する楽しみが図鑑にはある」と言っている。図鑑は未知の生き物を想像するツールにもなる。

図鑑を編む人たち

図鑑を編む人たちの多くは、収集家でもあるらしい。鉄道マニア、レコード収集、骨董品収集、ゼロ戦マニアなど、収集を趣味とする研究者は多い。私もちよつとした収集癖はあるが、家族からは依存症といわれている。編集者からみた著者の理想は、几帳面でリーダーシップとコミュニケーション能力がある方、真面目で時間と編集ルールを守る人がよい。編集者には、交渉力はもちろん、判断力と決断力、コスト感覚が欲しい。フィニッシュ時のパワープレーが可能な体力と精神力が必要だ。著者からみた編集者は方針がぶれず、問題解決能力が高く、決断力とコミュニケーションの能力と全体像を描ける編集者がよい

とのことだ。ある雑誌によると、図鑑の編集者の多くは血液型がA型、真面目で細かい仕事が得意、趣味は第一位が写真、続いて音楽、俳句や銭湯巡り、キノコ狩り、星座は獅子座と蟹座なのだそうです。該当がひとつもない私は、図鑑の編集者には不向きで失格であるようだ。

企画の種明かしをする。小会の自然科学の企画の原点は一九七五年の益田一らによる『魚類図鑑―南日本の沿岸魚』である。私の本格的な編集活動のスタートは、この図鑑からスピントフした一九九四年刊行の益田一による『日本産魚類生態大図鑑』である。この図鑑を担当したことが編集者として大きな転機となった。この図鑑を通して多くの研究者と親しくなり、いくつもの接続する企画、シリーズが誕生した(図1)。表すと「出会い↓ビジョン↓トラスト↓結果と評価↓接続」の円になる。この円をいくつも、いくつも描いてきた。

当たり前の「日常生活、その歴史を紐解く！

日本生活史辞典

木村茂光・安田常雄 編
白川部達夫・宮瀧文二

暮らしに関わる多様な事柄約2700項目を収録。 特価25000円
(期限17年3月末、以降27000円)

政治、宗教、そして造形、天皇の力のありようを美術作品から照らし出す。

天皇の美術史

全6巻刊行開始 各3500円

治天のまなざし、王朝美の再構築

鎌倉・南北朝時代
伊藤大輔・加須屋 誠著 天皇・
院・武士……交錯する「視線」と美術。

繁栄と独自性の源はここにあった！

古代の東国

全3巻 刊行開始 各2800円

前方後円墳と東国社会

古墳時代
若狭 徹著 各地の古墳や遺物を読み解き、知られざる実像を探る。

近代を知る、今がわかる。
時代の流れを平易に描く通史！

日本近代の歴史

全6巻 刊行中

〈既刊4冊〉 各2800円

- ①維新と開化……………奥田晴樹著
- ②「主権国家」成立の内と外……………大日方純夫著
- ③日清・日露戦争と帝国日本……………飯塚一幸著
- ④国際化時代「大正日本」……………櫻井良樹著

現代語訳 小右記 全16巻 刊行中

長徳の変 (第3回)

長徳2年(996)正月～寛弘2年(1005)3月
倉本一宏編 2800円

日記と歴史百科が一冊で便利！

歴史手帳

2017年版
900円

吉川弘文館

〒113-0033・東京文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151／価格は税別

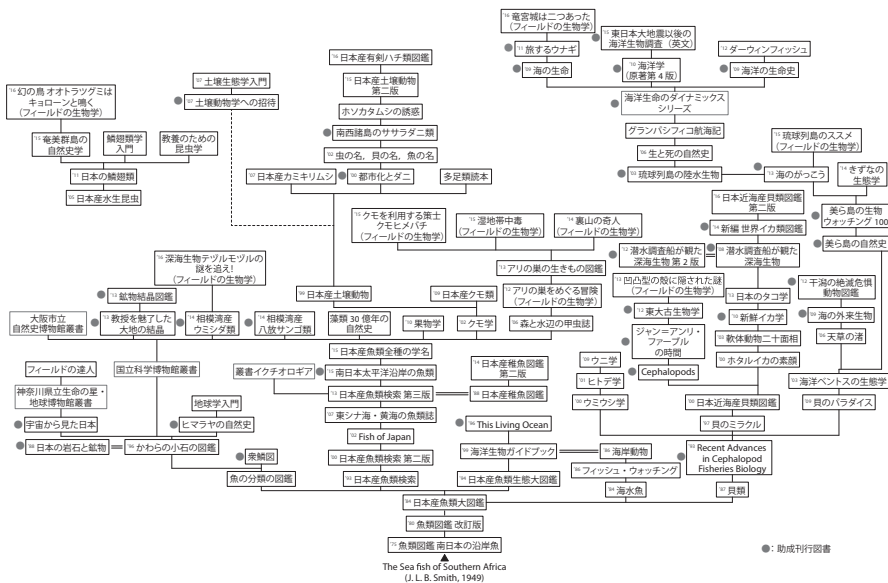


図1 企画の系統樹

図鑑を読みたい気持ち

先にも登場した親しい魚類学者に再登場していただく。

図鑑を読むとき。生命の本質とか、宇宙の成り立ちとか、そういう普遍的な真理はかなりどうでもよいことと思えてくる。そういうダイジナコトとは、ヨソノオトナが考えてくれる。そして日常生活は、命に別状がなければ、また人様にご迷惑をおかけしないことをなるべく心がければ、それでよいのである。そういった諸々の雑事とは離れて、森羅万象、この世に様々な事物や現象が展開していることに没頭する、至福の時間である。

何がよい図鑑かといえば、思うに、読んで楽しく、使って役立つ図鑑である。四つの条件が成り立っているとよい。

図鑑は一つの世界であるから、対象が全部のついている図鑑がよい図鑑、ということになる。少なくとも、①「たくさん載っている図鑑」、がよい図鑑である。

そして、図鑑は、「外の世界」と「内の世界」との接点である。外の世界の森羅万象のかげらを、先輩や仲間たちがどうとらえているのか、が、図鑑からわかるのである。その意味では②「ちゃんとわかる図鑑」がよい図鑑である。

藤原書店

苦海浄土 全三部 石牟礼道子

“水俣事件”は、今われわれの問題である。解説＝赤坂真理・鎌田慧・池澤夏樹・原田正純他 4200円

ひとなる

ちがう・かわかる・かわる

大田堯・山本昌知 囲いを開放した精神科医と、98歳の真の教育研究者の、魂の対話。 2200円

真実の久女

悲劇の天才俳人 1890-1946

坂本宮尾 『ホトトギス』同人除名等をめぐる従来の“久女伝説”を覆す、渾身の評伝! 3200円

「海東東征」への道

新保祐司 戦後“封印”されていた、信時潔・作曲、北原白秋・作詩の交声曲(カンタータ)は、今、なぜ復活したのか? 2800円

待つ女

マリー・ダリュセック 『めす豚ものがたり』で一世を風靡した著者の、最高の文学賞に輝いた最新の傑作。 高頭麻子訳 2400円

『ル・モンド』から世界を読む 2001-2016

加藤晴久 日本のメディアが報じない9.11後の世界を、仏高級日刊紙から読み解く。 3200円

作られた不平等

日本、中国、アメリカ、そしてヨーロッパ
R・ボワイエ レギュレーションの旗手が様々な問題を世界に提言。
山田鋭夫監修 横田宏樹訳 3000円



B6変32頁 10月号 №295
平川祐弘／木村汎／
宮脇昭／石牟礼道子／
花崎皋平／田中克彦／加藤晴久／大田昌秀／中西進／
中村桂子／三砂ちづる／尾形明子ほか。
年間購読料2000円(送料込) ◎見本誌・ブックガイド呈 ＊表示価格税抜
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523
振替 00160-4-17013 TEL 03-5272-0301
ホームページ <http://www.fujiwara-shoten.co.jp/>

そして、できれば③「きれいな図鑑」がよい。往々にして、きれいであることは真実に近い。図鑑の写真や図版は、現実から切り取られた理想の真実である。余分なものは映り込まず、全体に焦点が合い、誤解を招かないポーズの写真や絵をつくるのは、相当に手間がかかる。

①②③の条件を満たした上で、さらに望まれるのは④「軽い図鑑」であろうか。重い図鑑は使いづらいし、棚から落ちてくれば危険ですらある。しかし、条件の①や②を追及すれば、ページ数は増え、条件の③を満たすには上質の重い紙を用いなければならない。よい図鑑をつくるために、著者、编者、出版者や印刷業者の方々の努力が、せめぎ合っているのである。

例えば、幼少の頃、図鑑で文字を覚え、毎晩図鑑を読んでいた。そして、最近、息子も毎晩図鑑を読んでいるという。夏休みに学校から借りた数冊の本は、すべて図鑑だった。この事態を微笑ましくも思うが、妻

は相当、心配しているのである。

(武藤文人「図鑑を読む気持ち」、私書)
私も同感だ。「読んで楽しく、使って役立つ図鑑」は図鑑づくりの基本で、「読みたい気持ちにさせる図鑑」をつくりこんでいきたい。

図鑑を売りたい気持ち①——想定する読者

最も出版業界が盛況だった一九八五年から約十年間、小会の売上高も右肩上がりで一九九二年度には売上高が約七億円に達した。その後、様々な要因が重なり、現在は当時の三分の一程度になっている。

当時の図鑑の売上高は、新刊・既刊書の年間売上高の約五〇パーセントを占め、約三億円を売り上げていた。現在、図鑑の売上高は高価な図鑑の刊行によって左右されるものの、平均で年間売上高の数十パーセント、約二〇〇〇万円以上の売り上げがある。ここ五年間の売上高のベスト10を調べてみたところ、第一位は図鑑で、売上高は五八五一万

円。圈内には図鑑が五点あった。総売上は一億一六一六万円。一時は高原価、刊行の遅延、年度予算や収支に与える影響が大きいため、否定的な意見もあったが、低収益が続く小会にあって、売上をつくることのできる図鑑の存在は大きい。

しかし、流通を通しての高価な図鑑の販売は厳しい。研究機関や大学の図書費、研究費の削減などの影響も大きく、我々も販促資金が少ない、人がいないなどの経営資源が乏しいなど、売上に結びつける十分な活動ができていない。

図鑑の著者の多くは、自然科学系の大学教員、博物館や研究機関の研究者、アマチュアの生物研究者、生物マニアである。図鑑の想定読者は、既存の図鑑に満足できない層、自然科学系の研究者、理学・農学・水産系大学の研究室、大学院生、自然系研究者を目指す初学者、アマチュアの生物研究者・マニア、環境アセスメントである。著者も読者もほぼ同じ研究領域に位置する人たちである。著者^{イコール}読者が成り立つ。読者は著者周辺にいたいっていいだろう。

私は一九九五年頃から自然科学系のメーリングリスト（以下、ML）を利用し、販売促進活動を行っている。MLのデータからも、購入者は大学教員、研究者、アセスメント会社の順になる。販売地域は東京と関東地区、京都・大阪である。

私が利用しているMLは、一九九五年にスタートした生態学系MLのJ E C O N E T（加入者三五〇〇名）、進化生

物系のE V O L V E（二五六四名）と日本分類学会連合のT A X A（一〇四七名）だ。一定の自然科学系の研究者にコストというリスクなしに、ダイレクトに情報を届けることができる、直販で少しでも売上高の確保をしたい、刊行前に書籍の反響を確かめたいという思いで始めた。

著者の方々に図鑑の刊行情報と購入の決め手について質問を行った。「刊行情報はどこで得たのか」との質問には、①刊行されるらしいという噂、②ソーシャルメディアからの情報、③友人・知人の研究者からの情報、④内容見本、⑤新聞広告、⑥「これからする本」、⑦学会販売、⑧新刊情報、となった。購入の決め手は、①研究・教育に必要であり必需品、②内容に関して信頼と評判、③予算がある、④著者割引がある、⑤購入依頼があった、となった。購入方法は、①出版社より著者割引購入、②生協など学内、③出入りの業者、④学会販売、⑤アマゾン、⑥図書館へ購入を依頼、の順番になった。図鑑の販売に関しては、徐々に直販の比率が大きくなってきている。二〇一一年の注文数は直販三四パーセント、流通は六六パーセント、一四年では直販が四五パーセント、流通が五五パーセントであったが、現在はほぼ同率くらいではなからうか。

図鑑を売る気持ち②——たとえば『日本産有剣ハチ類図鑑』

『日本産有剣ハチ類図鑑』は、この三月に刊行された（B5判上製、製作部数一二〇〇部、七八〇頁、定価二五九二〇円、



有斐閣出版
東京・神田・神保町2 / tel.03-3265-6811

<http://www.yuhikaku.co.jp/>

殻を突き破る キャリアデザイン

就活・将来の思い込み
を解いて自由に生きる
筒井美紀著

四六判 1,700円＋税

就職活動が「なぜかうまくいかない」と悩む学生におくる、キャリアデザイン入門。高校のキャリア教育の先にある「いかに生きるか」という問いを見据え、激動の時代を生き抜くための必要となる具体的な知恵や実践可能なアイデアを紹介。

大学1年生のための 伝わるレポートの 書き方

都筑 学著

四六判 1,400円＋税

「長い文章書けるかな」「単位取れるかな」…そんな普通の心配に
応えて「調べる・考える・書いて伝える」
レポートの書き方の
コツを教えます。

大学での学びを アクティブにする アカデミック・ スキル入門

伊藤奈賀子・富原一哉編

(有斐閣ブックス)

1,700円＋税

大学での学びをより
充実したものにする
ための第一歩。

◎図書目録送呈◎

円とした。
刊行した三月から九月までの流通と直販の注文数を図2に示した。総売上数は七七六冊、総売上高は一三五万三
四〇一円である。そのうち流通での売上は、三九三冊、六
七六万四八三二円になった。直販の売上は、三八三冊、う

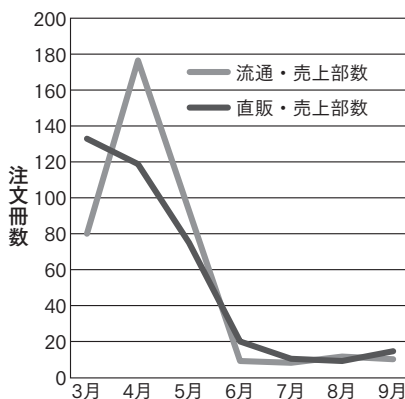


図2 流通と直販の注文冊数の比較

製造直接費は
五一三万円)。
スズメバチな
どを解説した
図鑑である。
編集者の売
上目標は、ま
ずは製造直接
費の回収、年
間販売数一〇
〇〇部、売上
高一八〇〇万

ち六本脚などが一〇八冊、六七七万四五六九円の売上高に
なった。流通と直販の比率は、ほぼ五〇対五〇。売上は刊
行月、翌月、翌々月で下降に転じる最近の書籍販売によく
見られるパターンである(図2)。
特定の狭い分野を扱う図鑑の販売を考えると、著者であ
る生産者はもちろん、消費者である読者も特定領域の研究
者なのだ。地元でつくって地元で売るようなものだ。もっ
と効果的に、より多く販売するためのヒントがここにある
そう。著者の協力が、確実な「売上をつくる」ことになり
る。特定分野の図鑑ならなおさらだ。読者層と販路は彼ら
が掴んでいる。
当たり前のことだが、編集者の「売りたい気持ち」も必
要なのだ。「つくりたい気持ち」があるのなら、収益を上
げなくてはならない。その収益が経営の一翼を担うのだ。
私は、魚類図鑑の著者である益田一さんの次の言葉は忘
れないようにしている。
「つくったら、売らないと、次がありませんからね」

読

む

波打ち際は
呼吸のリズム
歩くリズムが
脈を打つ

読書は
波打ち際の
リズムと
重なる



Readability	文章を面白く読める
Legibility	文章の組み方で読み易くする
Layout とは	文章と図版を共振させること

レイアウトの方法はほとんど
テンプレート化されている
J-pop や演歌のメロディーも
テンプレート化されていまいか

使い捨てのできるタイポグラフィは短命であるが、インパクトを重視する
使い捨てができないタイポグラフィは、誠実に長く生き続ける

そのものには形がない。
情報は、それが形になる。
インパクトが形になる。

美しい組版は
読者への優しさになる

美しい組版はスラスラ読める
字間と行間の上に空気が流れている
文章を読んでいる時は
その空気を吸っている
一行が長過ぎたり、短過ぎたり
行間が狭過ぎたりすれば
空気の流れが激み
息苦しくなる



月に書籍代 1000 円
携帯電話代 7000 円とすると
1 : 7 の割合で、時間も消費されている

新聞の発行部数の頂点は1927年
発行部数だけを頼りに出版し続けるなら
自分で自分の首を絞めている行為となる

信仰の為の書物から
事実を知る為に、更に楽しむの為に
知識が正確になり、
遠く迄知識が届く
それが17世紀、
科学革命の基盤となる
やがて産業革命となる

ソーシャルメディアでは
その方式が変われば
今使っている機器は
全てゴミになる

書物の形式は不変である



中垣信夫 | グラフィックデザイナー
Nobuo NAKAGAKI | Graphic Designer

書物が出回れば、
字を読みたい欲求が生まれる

15世紀に本が大量に出回ると
誰もが本を読みたくなり
識字率が上がった

知恵を求めることは 人間の最高の目的であり
人間の自己決定の 最高の行為である
Fabel (フーベル)



19世紀にイギリスで郵便制度ができると
誰もが手紙を出したくなり
字が書けるようになった

インターネットが普及すると
誰もが覚えなければ操作できなくなり
高齢者が疎外された

アフリカでは携帯電話の普及で
識字率が上がっている

話し言葉には介在者がいない
mediaは霊媒師

余命50年として

一生に何冊
本が読めるか

各週1冊→年48冊 48冊×50年= 2400冊.....
各月1冊→年12冊 12冊×50年= 600冊.....
各年3冊→年3冊 3冊×50年= 150冊.....
となる...

大学出版部協会・ブックレット

大学出版部協会 発行／東京大学出版会 発売【2014年6月刊】

2013年6月から4回にわたり開催された大学出版部協会創立50周年記念連続シンポジウム「新しい社会を拓く大学の力」の成果より、2点をブックレット化しました。 日本生命財団学術書出版助成図書



座小田豊 ごこたゆたか（東北大学大学院文学研究科教授）

田中克 たなかまさる（京都大学名誉教授）

川崎一郎 かわさきいちろう（京都大学名誉教授）

防災と復興の知 3・11以後を生きる

A5判・80頁／定価（本体1,000円＋税）ISBN978-4-13-003150-9

列島沿岸を巨大堤防で覆う？——これまで通りの高度技術をふりかざすだけで、はたして本当に強靱な社会をつくることができるのか。哲学・生態学・地震学による対話を通して、自然と社会を千年の単位で見直し、再生のための知のあり方を探る。

〈主要目次〉

第一章「ふるさと」の根源的な力と想像力の可能性（座小田豊）／第二章 森里海の連環から震災と防災を考える（田中克）／第三章 災害社会——本当に強い社会とは（川崎一郎）／終章「ふるさと」から「ふるさと」へ（座小田豊）



中村哲之 なかむらのりゆき（東洋学園大学人間科学部専任講師）

渡辺茂 わたなべしげる（慶應義塾大学名誉教授）

開一夫 ひらきかずお（東京大学大学院総合文化研究科教授）

藤田和生 ふじたかずお（京都大学大学院文学研究科教授）

心の多様性 脳は世界をいかに捉えているか

A5判・80頁／定価（本体1,000円＋税）ISBN978-4-13-003151-6

トリ、ヒト、それぞれが視る世界は同じものではない。赤ちゃんはいつごろから自分を自分と認識するのか。心の働きの多様性を比較認知科学・発達認知科学の視点からわかりやすく解き明かす。

〈主要目次〉

第一章 トリの「視る」世界——動物の錯視と心（中村哲之）／第二章 ヒト型脳とハト型脳（渡辺茂）／第三章 脳は世界をいかに捉えているか（開一夫）／第四章 討論——心の多様性と現代（藤田和生×中村哲之・渡辺茂・開一夫）／あとがき（藤田和生）

大学出版部ニュース

表示価格は税別です。

協会のブックレット第四巻を刊行へ

あれだけあからさまな差別発言を繰り返した人物が大統領に当選したのは、多くの有権者は自分に利益を与えてくれると判断した人間に一票を投じるからである。当人はただ社会的に正当化された無数の「差別」を日々行使するなかで、女性への差別発言を無意識のうちに取り違えたのかもしれない。予想外の反発には本人がいちばん驚いたことだろう。このように、差別とは何かという問いが発せられても、社会には巧妙な装置によって正当化された差別が多くありすぎて、なかなかその本質が見えてこない。見えないうちに、私たちには十分な意識化ができていない。たとえば生活上のバリアフリーが進むのは良いことだけれど、駅の階段で障害者に手を差し伸べられなかった自分を恥じる機会も失われていくのだ。差別については、米国大統領選の最中にミシェル・オバマ大統領夫人がこんな演説を行なったことを、作家の中島京子さんが伝えている。「自分と違う立場や境遇にある人と接することが少ない人はしばしば、人間を『我々（we）』と『やつら（them）』に分けてしまう。『やつら』と触れ合わず、姿が見えなければ、人間扱いをしないことが容易になる。軽蔑す

るようになる。でも本当は『彼らは、私たち』なのだ。差別とは、本来対等であるべき私たちが、私たち自身を『we』と『them』に分けてしまうことなのだ」。

現在協会では、偏見や差別はなくすことができるのか？ をテーマに、心理学、障害学、社会学の専門家による執筆・鼎談の「対立を乗り越える心と実践(仮題)」を二月上旬に向けて準備中である。

日比谷で地域創生フォーラムを開催

二月一〇日(土)に日比谷図書文化館で、岩手大学宮澤賢治センターと大学出版部協会共催の「賢治と語り合う21世紀の地域創生」フォーラムが開かれた。講演では、東京学芸大学石井正己先生が、柳田国男の『遠野物語』の中の一話を引いてきて、賢治の「銀河鉄道の夜」と対置する視点を探りだし、大震災以降の日本人についても述べられた。また法政大学岡村民夫先生は、賢治の創作『竜と詩人』を紹介しながら、文学者とは別な農業指導者としての賢治に光をあて、「大地の設計者」という賢治の興味深い姿を明示された。二百席の会場は熱心な聴講者でほぼ埋まり、宮沢賢治の異分野をも巻き込むたぐい稀な想像力に打たれたように、一時間半のプログラムが短くも感じられたひとときであった。

北海道大学出版会

- ▼永盛俊行・永盛拓行・芝田翼・黒田哲・石黒誠著『完本 北海道蝶類図鑑』(B5判・四〇六頁・一三〇〇〇円) 土着種全一六種を収録。成虫全種の野外写真と♀表裏の標本写真に加え、幼生期の生活史や食草(樹)も写真で紹介。
- ▼藤木利之・三好教夫・木村裕子著『日本産花粉図鑑 増補・第2版』(B5判・一〇一六頁・一八〇〇〇円) 一六三七種の花粉の走査電顕・光顕撮影写真と解説。
- ▼須崎忠助画/加藤克・高橋英樹・中村剛・早川尚解説『須崎忠助植物画集―大雪山植物其他』(B5判・一一二頁・二五〇〇円) 『北海道主要樹木図譜』の画工による未発表作が90年の時を経て甦る。
- ▼高橋英樹編著『ランの王国』(A4判・一三二頁・一八〇〇円) 国内外の野生ランをカラー写真で紹介。昆虫や菌類との共生等の適応戦略をわかりやすく解説。
- ▼日本地質学会北海道支部監修/石井正之・鬼頭伸治・田近淳・宮坂省吾編著『北海道自然探検 ジオサイト107の旅』(四六判・三七二頁・二八〇〇円) 魅力あふれるジオサイト(地形・地質現象)を紹介。この目で見たい大自然!

弘前大学出版会

- ▼ルネ・H、デビッド・C・M/森本洋介(監訳) 上松恵理子・斎藤俊則・菅原真悟・中村純子・村上郷子・和田正人(訳)『メディア・リテラシー教育と出会う―小学生在デジタルメディアとポップカルチャーに向き合うために』(B5判・二二二頁・二〇〇〇円) アメリカ合衆国の小学校における教育の現場で発見された多様な課題と問題点を体系化し、子供たちのためのデジタル・メディア・リテラシー教育の実践方法を提案する。本書の独自性は、我が国でのリテラシー教育の取り組みにとつて、きわめて有益かつ新しい道標となるだろう。
- ▼和氣太司著『インドネシアの私立大学―発展の仕組みと特徴』(A5判・一六六頁・三七五〇円) 世界最大の島嶼国家インドネシア。その人口は世界第4位の2億五千万に及ぶ。教育の普及も進み、現在4千近い大学があるが、その96%を私学が占める。ジャカルタ特別州の私立大学とその経営主体である設置者に注目し、社会の教育ニーズに迅速に対応し拡大を遂げた私立大学の発展の仕組みと特徴を実証的に浮彫りにする。

東北大学出版会

- ▼Izumi Takeo 著『Painting of Bamboo Flutes: A History and Genealogy of Shakuhachi Performance』(A5判・一五四頁・二四〇〇円) 既刊『竹を吹く人々―描かれた尺八奏者の歴史と系譜』の英語版。絵画作品に残された尺八吹き姿を追ひ、文献資料の読解を加えつつ、古代から近世に至るそのバラエティー豊かな生態を歴史文化史的にたどる。日本の文化と歴史を伝える一冊。
- ▼中嶋正道・荒井克俊・岡本信明・谷口順彦編『水産遺伝育種学』(B5判・二三六頁・三五〇〇円) 遺伝学を主として生態学や分類学、生理学、統計学、生殖・発生生物学など様々な学問をベースにした、新たな「水産遺伝育種学」の入門書。初学者向けのテキストとして、基本資料や図版を豊富に収録。
- ▼花輪公雄著『東北大学出版会ブックレット002 続 若き研究者の皆さんへ―青葉の杜からのメッセージ』(A5判・一一〇頁・九〇〇円) 海洋物理学の専門家によるエッセイ集の続編。多様な切り口から、新時代を担う若き研究者たちへの提言を軽快な筆致でつづる。

流通経済大学出版会

▼陳蕭蕭著『中国女子労働者の階級と消費空間』（A5判・二四二頁・三三〇〇円）本書は、中国の新興工業都市・大連開発区における女子労働者の、消費、社会階級、空間の実証研究を通して、現代中国の消費社会化とその特徴を明らかにするものである。

▼デイヴィッド・K・ヘイズ、アリシヤ・A・ミラー著／中谷秀樹訳『レベニュー・マネージメント概論―ホスピタリティー産業の経営理念』（B5判・五〇四頁・二七〇〇円）本書は『ホスピタリティー産業のレベニュー・マネージメント』（二〇一四年十月刊行）の改訂版である。レベニュー・マネージメントとは、ホスピタリティー産業特有の供給制限を伴う限りある商品やサービスを最適な顧客に最適な場所とタイミングで提供するための価格設定と売上の最適化戦略である。

▼中山秀登著『民法の流れ図―物権』（B5判・三六二頁・三二四〇円）筆者自身、図解して初めて、民法を理解することが、しばしばありました。法律問題に直面した際に、本書のように図解してみると、いいのではないのでしょうか。

聖学院大学出版会

▼松本祐子著『魔女は真昼に夢を織る』（A5判・二五六頁・二二二〇〇円）第一部には、〈Witches Weave the World〉から想起される、みずから手で世界を紡ぐうとする異端の〈魔女〉たちをヒロインとした創作ファンタジー『魔女の森』『氷姫』『ガラスの靴』を、第II部「語りの魔法に魅せられて」には、物語世界に表象された〈魔法〉をめぐる論考「魔法ファンタジーに見る知と力の関係」、「おとぎ話の功罪」、「魔法の食卓」、「魔法にかけられた子どもたち」とコラムを収録。神話や伝説、古典的名作から、映画、ライトノベルに至るまで、さまざまなファンタジー作品を取り上げながら、言葉の持つ魔法の力を検証し、現代人がファンタジーを必要とする理由を解き明かす。カバーイラスト…佐竹美保



聖徳大学出版会

▼川並知子・広瀬知里共著『子どもと親のためのおりがみアイディア』（B5判・一二八頁・一五〇〇円）幼児が無理なく折り紙遊びを楽しめる方法や、「折る」だけで、簡単に折り紙を三等分や五等分・六等分にできる技法も取り上げた。新たな折り紙の魅力に気づける一冊。



▼川並知子著『さくら紙あそび』（B5判・六四頁・六五〇円）「さくら紙」（おはな紙）の遊び方別に構成し、作品の活用例もふんだんに掲載。親子での紙遊びから保育現場での活用など、ぜひ手本としてさくら紙あそびを楽しんで欲しい。



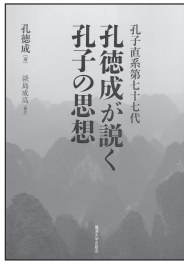
麗澤大学出版会

▼孔徳成著／淡島成高編訳『孔子直系第七十七代 孔徳成が説く孔子の思想』（A5判・カラー口絵二十頁・本文二八八頁・一八〇〇円）。

台湾大学等で、五十余年、古代の「礼学」研究、「金文」研究と教育に心魂を傾けられた孔徳成氏の講演集。民族・国家・宗教の対立等、多くの問題に直面する現代にこそ求められる孔子の「仁」（愛）、慈しみ、思いやり。の精神。その要諦を分かりやすく語る。

〈目次〉

孔子の生涯と思想／孔子が重んじた道徳・知識・学問／孔子思想の東アジアへの影響／「孝」の本質／儒家の「伝統」觀念／廣池千九郎博士の伝統についての考察／孔子の思想と精神／孔子の処世訓／孔子の家庭教育についての考え方／現代社会と孔子の思想／孔徳成先生事績



慶應義塾大学出版会

▼N・グッドマン著、戸澤義夫・松永伸司訳『芸術の言語』（四六判・三〇四頁・予価四二〇〇円）絵画、音楽、ダンス、建築……芸術はすべて現実の部分进行分类する記号として、私たちが生きている世界の理解と、その世界の構築に貢献している。現代美術および英米哲学一般において、芸術の問題へのアプローチを根本的に転換した分析美学の最重要書。

▼松居竜五著『南方熊楠―複眼の学問構想』（A5判・六八八頁・四二〇〇円）

世界各地を自ら踏破し、古今東西の膨大な時空に広がる文献を駆使して、*Nature* や *Notes and Queries* に四〇〇篇近い英文論考を発表。西欧の知的潮流に正面から向き合い、独創的な知を紡いだ学者南方熊楠、誕生の軌跡。

▼タナハシ・コーツ著、池田年穂訳『世界と僕のあいだに』（四六判・一九二頁・二四〇〇円）父から子へ、今何を語れるか。黒人の肉体は自らの所有物ではなく、「国民の自由と平等」を掲げ、白人によって築かれた祖国アメリカの歴史を支えてきた資源にすぎない。透徹した眼差しで描くアメリカの現在。全米図書賞受賞。

専修大学出版局

▼専修大学今村法律研究室編『今村力三郎訴訟記録第四十六巻 神兵隊事件 別巻五』（A5判・四四八頁・五六〇〇円）

昭和八年七月に起きたクーデター未遂事件で、殺人罪、放火予備罪、爆発物取締罰則違反として起訴され、東京地方裁判所で予審に付された神兵隊事件の被告人五四名の、訊問調書写の後半部分を収録（前半部分は別巻四に収録）。この訊問調書は、事件の予審終結意見書において、被告人等の行為が内乱予備罪に相当するとの判断を、予審判事が行う根拠となった重要資料である。

*「神兵隊事件」既刊 好評発売中

▼『今村力三郎訴訟記録第四十二〜五巻 神兵隊事件 別巻一〜四』（二〇一三〜一六年刊行）昭和八年当時の国家改造計画や経済政策案、満蒙問題関連資料、予審被告人尋問調書などを収録。

▼『今村力三郎訴訟記録第八〜九巻 神兵隊事件 一〜二』（一九八四〜八五年刊行）クーデター未遂事件の予審請求書、証拠資料、判決書などを収録。

大正大学出版会



▼大正大学地域構想研究所編『地域人』(A4判・平均一四四頁・八一五円・毎月十日発売)「現代社会の最優先課題は、地域創生にある」をテーマに、地域の実態理解と再生の方法論をさまざまな視覚から紹介する地域情報満載の総合情報誌。地域特集では、現地取材をもとに、物事を経済的視点だけから見るとはならず、多様な文化、歴史、暮らしに至るまでを掘り起すことを目指している。一方で、地域創生とは何かを豪華連載人による、人口、産業、食文化、リノベーション、ふるさとと信仰など、社会から心の問題まで幅広い提言を毎号掲載する。

第一五号特集「ふるさとと納税と地域創生」その人気、効果と問題——寄付金額上位自治体の成功事例／体験型メニューで交流人口増／復興支援ふるさとと納税／ふるさとと納税の功績と課題他

玉川大学出版部

▼有本章著『大学教育再生とは何か——大学教授職の日米比較』(A5判・五九二頁・六二〇〇円)中世の大学から近代の大学に至る歴史に学びつつ、国際調査で明らかになった日本の大学や大学教授職の現状と課題を分析する。立ち遅れた日本の大学はいかに再出発できるのか。長年、高等教育研究に携わってきた著者による、二十一世紀の大学への提言。

▼キャサリン・プリンス・イートン著／谷川道子・伊藤愉編訳『メイエルホリドとブレヒトの演劇』(四六判・三四四頁・三八〇〇円)二〇世紀前半の激動の時代に、演劇と社会との関係を問いながら、新しい理論と方法を追求しつづけた二人の演劇人の関係を読み解く。ベンヤミンのエッセイ(本邦初訳)と谷川道子・伊藤愉・鴻英良の論考を併録する。

▼寺本潔編／青木寛子絵『玉川百科こども博物誌』ぐるっと地理めぐり』(A4判・一六〇頁・四八〇〇円)旅のルートをたどりながら、日本と世界各地の特色ある風景や食べ物、歴史や文化を体験。細部にこだわった絵と簡潔な言葉で説明する、シリーズ第二弾。

中央大学出版部

▼高橋治男著『交友余情——忘れえぬ師友の肖像』(四六判・一七〇頁・一二〇〇円)仏文学者が活写した恩師と友人二〇名の肖像。敬愛と友情、理解とユーモアに満ちた珠玉のエッセイ。弔辞または追悼文の形をとっているが、多彩で個性豊かな師友たち、鈴木力衛、竹村猛、福永武彦、白井健三郎、三宅徳嘉、並木康彦、野沢協、山崎庸一郎、丸山圭三郎などのあまり知られざる姿も紹介されている。

▼土田哲夫編『近現代東アジアと日本——交流・相剋・共同体』(A5判・三六八頁・四二〇〇円)内外の歴史家が近現代の日本と東アジアとの間の複雑な交流と相剋の歴史を説き明かし、日本とアジアの和解と共生の道を展望。

▼高橋宏幸・加治敏雄・丹沢安治編著『現代経営戦略の軌跡——グローバル化の進展と戦略的対応』(A5判・三六四頁・四三〇〇円)現代のグローバル化、デジタル化の進展の下での戦略的対応。グループ経営、親子会社における法と戦略、グローバル人材、外国人労働者政策、言語使用問題、中小企業の受注戦略などが取り扱われている。

東京大学出版会

▼川添愛著『精霊の箱―チューリングマシンをめぐる冒険(上・下)』(A5判・各三二頁・各二六〇〇円) 新米魔術師ガレットに次々と襲いくる苦難と試練。物語の謎を解きながら「計算」と「コンピュータ」の基礎を楽しく学ぶ。ヒット作『白と黒のとびら』待望の続編。

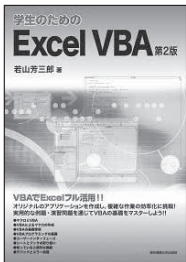
▼竹峰義和著『救済』のメーデーウム―ペンヤミン、アドルフ、クルーゲ』(四六判・四七二頁・五九〇〇円) フランクフルト学派の思想家たちが遺したテキストを内在的に精読することで、そこに孕まれるアクチュアリティを再起動し、『救済』の音楽を鳴り響かせる。

▼久保川達也・国友直人著『統計学』(A5判・三五二頁・二八〇〇円) 豊富な図を用いて、統計学を学ぶ動機づけから、社会や経済への応用までを丁寧に説明する初学者のためのテキスト。

▼田中亘著『会社法』(A5判・八〇〇頁・三八〇〇円) 初学者向けの基礎事項から実務家向けの最新トピックまで、会社法のすべてを概説。基本原則や制度趣旨など初歩に始まり、実務上の運用や争点など実践的な知識も数多く提示する。

東京電機大学出版局

▼若山芳三郎著『学生のためのExcel VBA 第2版』(B5判・一四四頁・一八〇〇円) VBAとは、Microsoft Officeのアプリケーションで共通して利用できるマクロ言語である。VBAをマスターすることで、オリジナルのアプリケーションを作成し、複雑な作業を効率化することができ。本書は、VBAを用いて、Excelを十二分に活用するためのテキストである。VBAの概要から、マクロの作成・実行方法、ユーザーインターフェースの作成方法までを解説。初学者でも学びやすいよう、基本的なプログラミングの記述方法、エラー処理の仕方についても詳解している。また、実用的な例題・演習問題を豊富に掲載しており、実際に作業をしながら読み進めることで、VBAの基礎をマスターすることができる。



法政大学出版局

▼久米雅雄『はんこ』(四六判・三四四頁・三四〇〇円) 「漢委奴国王」印、「親魏倭王」印、歴代の「天皇御璽」、「大日本国璽」、「武家のはんこ」から「庶民のはんこ」まで、歴史学と考古学の知見を綜合し、文献史料と実物資料をもとに印章をめぐる数々の謎に挑む。

▼齋藤元紀・澤田直・渡名喜庸哲・西山雄二編『終わりになきデリダ―ハイデガー、サルトル、レヴィナスとの対話』(A5判・四〇八頁・三五〇〇円) 現代哲学をつらぬく主題群をめぐる強靱な思考を展開した四者の思想的布置を気鋭の研究者たちが考察する。デリダによる本邦初訳の講演「出来事を語ることのある種の不可能な可能性」を収録。

▼K・クラウス／池内紀訳『人類最期の日々』(普及版)上巻(四六判・四四四頁・四七〇〇円)、下巻(四六判・三八六頁・四六〇〇円) 十九世紀末ウィーンが生んだ異才カール・クラウスが、第一次大戦中に現実に語られた言葉を織り上げ、人類がたどった悲劇を描いた空前絶後の諷刺劇。クラウスに情熱を捧げた訳者による渾身の書き下ろし解説!

武蔵野大学出版会

▼樋口一葉著／千明初美漫画『漫画版

【文語】たけくらべ』(A5判・二四〇頁・二五〇〇円) 樋口一葉『たけくらべ』の原文(文語)を、漫画のフキダシに収めて解説した、これまでになかった新しいタイプの文学BOOK!



▼ケネス田中編著『仏教と気づき』(四六判・一七六頁・一七〇〇円) 日本人は仏教を「信じる宗教」だと誤解している。仏教は心身を通して真実に気づく「気づきの宗教」なのだ。「何に、どのように気づくべきなのか?」武蔵野大学の仏教学・印度哲学の専門家が、独自の視点からやさしく解説する。

▼阿部和穂著『危険ドラッグ大全』(A5判・二五六頁・二五〇〇円) 危険ドラッグは脳にどう作用するのか? 危険ドラッグはなぜやめられないのか? 薬学部の教授である薬の専門家が、危険ドラッグのすべてを豊富な図版で解説する。

武蔵野美術大学出版局

▼池田良二『池田良二アートワーク 1976-2016 静慮と精神の息吹』(A4判変型・上製・四色刷・一八四頁・三五〇〇円)

銅版画家池田良二の、四〇年以上に及ぶ表現活動の軌跡を辿る。フォトエッチングを中心としたさまざまな技法によって池田がつくり出すモノトーンの銅版画は、画面に刻まれた深い闇に作者の死生観を映しつつ、観る者を内省的な考察へと誘う。本書では、池田の制作のあゆみを四つの時代に分け、それぞれの時代毎の特徴を浮かび上がらせながら、いずれの時代にも一貫した池田の表現と対峙する真摯な姿勢が生み出した作品群を俯瞰する。初期の版画作品から新作まで、銅版画を中心に約九〇点のアートワークと詳細な年譜を掲載。陶芸や木工など、版画以外の分野への多様な展開も紹介する。

▼【近刊】山崎博『計画と偶然』(A4判変型・一九二頁・予価二五〇〇円) 写真・映像を「時間と光」というエッセンスによって捉えた山崎の個展(東京都写真美術館開館二〇周年記念展、三月七日～五月一〇日予定)作品集。

明星大学出版部

▼明星大学教職センター編『第2版 教員を目指す君たちに受けさせたい論文講座―教育の見方・考え方が変わる』(A5判・一七八頁・一六〇〇円) 教員採用試験の論文攻略技術及び方策を実践的に示す指南書。採点者の評価の視点はどこにあるか、実際の出題例に即して留意点を考え、同時に試験の対策事例を紹介。第2版では、平成二八年実施の論文試験の事例分析を行い、新たに「教育時事主要テーマ別各自治体出題分析一覧」と本書初版を活用した「合格者の声」を掲載した。公立幼稚園と公立保育園の採用試験対策も収録。書くプロセスを経た者に教員の道が拓ける。

▼明星大学教職センター編『教員を目指す君たちに受けさせたい面接試験対策講座―教員になる覚悟を持つ』(A5判・二五〇頁・一九五〇円)

▼青木秀雄著『第2版 洞察力を培う初等社会科教育法―知識基盤社会を生き抜くために』(A5判・二五〇頁・一八〇〇円) ▼【近刊】青木秀雄編著『現代教育制度と経営』(A5判・予価一五〇〇円)

早稲田大学出版部

▼上野義雄著『早稲田大学学術叢書』『現代日本語の文法構造 形態論編』(A5判・三九六頁・五〇〇〇円) 統語範疇と形態範疇の峻別、統語構造と形態構造の峻別、屈折と派生の峻別、語や語形の認定、語類の生産性の問題などを中心に、現代日本語の形態論とそれが統語論とどのように関わるのかについての分析を提示する。



▼島崎崇史著『早稲田大学エウブラクシス叢書』『ヘルスコミュニケーション—健康行動を習慣化させるための支援—』(A5判・二二六頁・二八〇〇円) ヘルスコミュニケーションに関する多様な学問分野における研究および実践の成果を明らかにする。



関東学院大学出版会

▼宮村忠著『改訂 水害—治水と水防の知恵』(B6判・二四〇頁・一九〇〇円) 多数の河川が国土を刻む日本では、治水が永遠のテーマである。公共事業に頼るあまり、被害を大きくしている現代水害の実態を紹介しながら、各地に伝わる自主防災の知恵の再考を提唱。

▼楠木紀男・高島英幸編著『建築の耐震設計』(B5判・二〇四頁・二三〇〇円) 近年大きく変化している建築の構造設計、特に耐震設計法を平易に解説し、初学者の学びを容易にするとともに、すでに、経験豊富な構造設計者にも新しい設計法になじめるように工夫された解説書。

▼山本育三著『マンシヨンの動的管理—マンシヨンの長寿命化と再生への指針—』(A5判・一二八頁・一八〇〇円) マンシヨンは、区分所有者の合意によつてのみその進路が決まる居住運命共同体である。それらマンシヨンの「長寿命化」と時代のニーズに応えた改善による「再生」を目標に、著者の豊富な研究歴と管理実践で得た管理事例や提言を紹介し、マンシヨンの積極的な管理「動的管理」の必要性を説く。

東海大学出版部

▼畑瀬英男著『竜宮城は二つあった—ウミガメの回遊行動と生活史の多型—』(B6判・二四八頁・二〇〇〇円) 二つの竜宮上の謎を解明かすため日本の代表的なウミガメ産卵地を渡り歩いた見聞録。

▼徳田誠著『植物をたくみに操る虫たち—虫こぶ形成昆虫の魅力—』(B6判・三〇四頁・二〇〇〇円) はじまりはゴールから? 虫こぶと出会った研究者の「虹色の研究室」までの軌跡。

▼深澤遊・吉原佑・松本悠訳『地上と地下のつながりの生態学—生物間相互作用から環境変動まで—』(A5判・三三六頁・四八〇〇円) リチャード・バージェット、デイヴィッド・ワードル 著

『Aboveground-Belowground Linkages: Biotic Interactions, Ecosystem Processes, and Global Change』の翻訳。

▼尼岡邦夫著『日本産ヒラメ・カレイ類』(B5判・二二六頁・一八〇〇円) 日本産カレイ・ヒラメ類九十四種をカラー写真で紹介する有用魚類図鑑。



名古屋大学出版会

▼今井祐子著『陶芸のジャポニスム』（A5判・七六〇頁・七八〇〇円）見出された新たな美——。欧米の作家・美術商・収集家らを魅了した「陶芸のジャポニスム」。海を越えた日本陶磁や陶器書を手がかりに、美意識や造形が転換・深化していくプロセスを跡づけ、グローバルな芸術文化史を描き出す。

▼水野さや著『韓国仏像史——三国時代から朝鮮王朝まで』（A5判・三〇四頁・四八〇〇円）豊かな造形を誇り、独自の美を示して華ひらいた朝鮮半島の仏像史を、わが国で初めて包括的に紹介。古代から近世までの流れを一望し、日本・中国の作例との深い関連性も捉え、東アジア圏での交流の重要性を浮彫りにする。

▼デイヴィッド・ルイス著／出口康夫監訳『世界の複数性について』（A5判・三五二頁・五八〇〇円）われわれの住むこの世界とは、異なる可能世界は実在するのか？ この上なく大胆な枠組みを明晰かつ説得力ある語り口で展開。可能性や必然性などを新たな形でとらえ直すことで、世界のあり方をかたてない仕方ではないか、知的転回をもたらした衝撃作。

三重大学出版会

▼松岡裕之編『衛生動物学の進歩 第2集』（四六判・三五九頁・六〇〇〇円）衛生動物学の進歩 第1集」が出版されたのは一九七一年。その後四五年を経て科学は飛躍的という言葉では表わせないほど発展した。衛生動物学の分野もまた同様である。本書は現在その分野で第一線にあって研究を進めている秀英らによって、その膨大な全容が概説されている。

▼富田達也・富田江一著『水素核融合に向けての基礎的諸問題』（四六判・八五頁・四五〇〇円）核融合は、原子力発電を実用化した技術力で克服可能と考えられ、反応開始温度を徐々に高く設定するなど、様々な努力が試みられてきました。が、まだ成功には至っていません。温度を上昇させても、核融合の開始が認められないということは、温度の問題以外の他の要因を考える必要があるのかもしれない。そこで、本書では、熱核融合の基礎となる理論をもう一度問い直すことによって、この問題を考えます。

京都大学学術出版会

▼グレン・パケット著『科学論文の英語用法百科 第2編 冠詞用法』（菊判・三二六頁・二六〇〇円）冠詞のない言語を母語とする日本人にとって、冠詞はとりわけ難しい。百万人の研究者・学生を悩ませる誤用の壁をクリアし、英語の世界観への扉をひらく。推薦『山極壽一氏・佐藤文隆氏・青木薫氏』。

▼西山良平・鈴木久男・藤田勝也編『平安京の地域形成』（菊判・三六〇頁・四〇〇〇円）都市型隣人集団が形成された平安後期、住人たちは放火や強盗にどう連帯したのか。職能ごとの集住や祭りへの奉仕はいづれ始まったのか。多様な個別の住まいと、住まい・住人が有機的に関連しつつ形成された「地域」の個性に着目し、平安京という都市の全体構造を明らかにする。

▼堀和生編『東アジア高度成長の歴史的起源』（A5判・三八六頁・四八〇〇円）戦後東アジアの一角で始まった高度成長の波は、しだいに周辺の地域に広がって、現在世界経済に大きな影響を与えつつある。この注目すべきグローバルな現象を戦前に遡る歴史的起源から解明。

大阪経済法科大学出版会

今回は既刊書の紹介です。

▼金 勲著『元曉佛学思想研究』（A5判・二六八頁・三五〇〇円）

人類は一つの地球上で生活している以上、相互交流の中で諸価値の衝突がおこることはやむを得ない。問題はそれにどう対処し、解決するかにある。いわゆる現代文明は、二一世紀にはいつて岐路に差し掛かっている。特にグローバル化に伴う価値多元化がもたらした問題を解決する知恵が何よりも必要とされている。

今から一三〇〇年も前に、朝鮮半島の南端の新羅という国で活躍した思想家元曉は、人類社会の基本的特徴である人間の個性を尊重しあいながら、矛盾、衝突を和会する哲学構築に専念し、「百家異諍」を和会する素晴らしい和諍哲学体系を作り上げた。元曉の哲学は、今日に至るまで韓国だけでなく、中国、日本の思想界に大きな影響を与えている。真理は時間と空間を超える存在で、人類共通の精神的糧である。こういう視点で、本書が現代社会を生きていく読者たちにささやかなりとも助けになれば幸いに思う。

（あとがきより）

大阪大学出版会

▼林葉子著『性を管理する帝国 公娼制度下の「衛生」問題と廃娼運動』（A5判・五二八頁・七〇〇〇円）日本における公娼制度とその存廃をめぐる議論の歴史を、徹底的な史料の裏付けのもとに再検討。

廃娼運動が進められていく過程で形作られた家族観や娼婦への人権侵害に関する議論の時代的変化についても詳述する。

▼竹内栄一・田中敏宏著『高温材料プロセスにおける熱移動の基礎とケーススタディー - Metallurgical Heat Transfer』（B5判・一七八頁・三〇〇〇円）材料プロセスシミュレーションに関与する

様々な熱移動現象について、伝熱の基礎知識とそれらを適用した解析をケーススタディーを通して習得する材料工学領域必携テキスト。英文ベースで和文を併記し、専門英語表現も学べる。

▼湯浅邦弘著『懷徳堂の至宝―大阪の「美」と「学問」をたどる』（A4判・九四頁・二〇〇〇円）重建懷徳堂の開学百年を記念した資料図録。最新新発見の資料の大型写真をはじめ、修復を施してより図柄が明瞭になった最新版及びカラー版36頁を含む。

関西大学出版部

▼松浦 章・笹川慶子著『東洋汽船と映画』（A5判・四五〇頁・三一〇〇円）

東洋汽船会社は浅野総一郎が創業したアジアを代表する汽船会社のひとつである。その東洋汽船が渋澤榮一らの貴賓会や大隈内閣の外客誘致政策の影響下に東洋フィルム会社を設立、それが後に谷崎潤一郎を迎えた大正活映に発展する。製作配給興行における東洋汽船の新しすぎる試みは、亀裂を生みつつ新たな地平を切り開く。

▼北川央著『なにわの事もゆめの又ゆめ 大阪城・豊臣秀吉・大坂の陣・真田幸村』（四六判・一八〇頁・一四〇〇円）豊臣秀吉が天下統一の拠点として築き、大坂夏の陣で落城した大坂城。本書は、本願寺八世蓮如の大坂御坊建立に始まる大坂城の歴史。今も残る大坂城の石垣や櫓・門などの古建造物の魅力、秀頼時代の豊臣家の実像と大坂の陣勃発の経緯、大坂の陣における真田幸村の活躍ぶりを、最新の研究成果に基づき、わかりやすく紹介する。

関西学院大学出版会

▼森一生・岡明理恵・畑祥雄著『みらいの里山つくり―植物工場からオーガニック野菜が届く』（A5判・一二八頁・一五〇〇円）植物工場がつくる未来の農業の姿とは。

▼地道正行著『Shrinkage Regression Estimators and Their Feasibilities』（B5変形・一四二頁・四〇〇〇円）（実行可能型）縮小回帰推定量が、多重共線性のもとで適切に利用されれば、最小自乗推定量よりもより「有効」となる可能性について考察。

▼中国モダンイズム研究会著『ドラゴン解剖学・竜の子孫の巻 中華文化スター列伝』（A5判・二二二頁・一九〇〇円）中国近現代史に名を残す人物を選び、十四章に分けて、執筆者が自由な角度からその生涯を紹介する。

▼中村直人著『歴史のなかの上ヶ原―西宮市上ヶ原、古墳から震災まで』（A5判・一七八頁・二〇〇〇円）兵庫県西宮市上ヶ原地区の古墳時代から安土桃山・江戸時代、そして戦争・震災までを図版多数でわかりやすくまとめた地域史。

広島大学出版会

▼安村誠司、神谷研二共編『Public Health in a Nuclear Disaster: Message from Fukushima』（B5判・四六〇頁・五三〇〇円）本書は「原子力災害の公衆衛生―福島からの発信」（南山堂、二〇一四）に、広島大学の取り組みを加筆し、全編英訳したもの。東日本大震災後の福島第一原子力発電所事故から6年になるが、著者のメッセージは「震災は続いている」である。原子力災害後の福島での公衆衛生のさまざまな取組みを世界に発信し、正しい理解を求める。

▼高橋衛著『近現代経済史研究の理論を問う』（四六判・二五五頁・一一〇〇円）本書は混迷を続ける近現代経済史研究に対し、そのトップレベルにあたる「大塚史学」と「宇野理論」を批判的に克服し、新たな経済理論の開発を目指すものである。内容は著者の自分史を交え平易にし、専門家から市民まで幅広い読者に親しみやすくなっている。◆主要目次◆学問研究とは何か／マルクス経済学の影響／「研究」こと始め／経済史研究の課題と理論／「大塚史学」批判／「宇野理論」に問う／「近代経済学」の活用

九州大学出版会

▼阿部俊大著『レコンキスタと国家形成―アラゴン連合王国における王権と教会』（A5判・三四四頁・六四〇〇円）イスラームとの接触は、形成期のキリスト教文明圏の政治・社会体制にどのような影響を及ぼしたのか。欧米学界の研究動向を踏まえ、中世スペインの具体的事例から、君主権力と教会の関係を軸に解き明かす。

▼秋吉收著『魯迅―野草と雑草』（A5判・三九八頁・五八〇〇円）最高傑作たる散文詩集『野草』が、実際にはタゴールやツルゲーネフ、そして芥川龍之介や佐藤春夫等の日本文学からの模倣に支えられていた事実を、一次資料の緻密な調査によって跡づけ、真の近代的文人たる魯迅の意識の深層を明らかにする。全編にわたる『野草』新訳も収録。

▼麻生太吉日記編纂委員会編『麻生太吉日記全五巻』（A5判・各一〇〇〇〇円）近代を代表する実業家麻生太吉が企業経営者としての円熟期に残した日記（一九〇六―一三三年）の翻刻と解説。筑豊炭坑業の実態や地方財閥発展の過程を綴る貴重な史料、ついに完結。

大同印刷(株)	〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20 TEL 0952-71-8550
ダイニツク(株)	〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 御成門ビル TEL 03-5402-1811
(株)太平印刷社	〒140-0002 東京都品川区東品川1-6-16 TEL 03-3474-2821
(株)太洋社	〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1 TEL 058-324-2111
寶紙業(株)	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-7-14 TEL 03-3261-5335
(株)竹尾	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6 TEL 03-3292-3617
(株)東京弘報社	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34 TEL 03-3291-1771
(株)とうこう・あい	〒104-0061 東京都中央区銀座7-13-12 サクセス銀座7ビル4F TEL 03-5148-7200
東光整版印刷(株)	〒135-0006 東京都江東区常盤2-12-15 TEL 03-3632-0801
(株)トーヨー企画	〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7 TEL 075-411-8288
図書印刷(株)	〒114-0001 東京都北区東十条3-10-36 TEL 03-5843-9700
(株)日新広告社	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-12-10 喜久屋ビル3F TEL 03-3263-9431
(株)日本経済新聞社	〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7 TEL 03-5255-2198
萩原印刷(株)	〒112-0004 東京都文京区後楽2-21-12 TEL 03-3811-4272
(株)博報堂	〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー19F TEL 03-6441-6711
藤原印刷(株)	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4-5 TEL 03-3291-0191
(株)平文社	〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7 TEL 03-3944-0301
(株)堀内印刷所	〒335-0034 埼玉県戸田市笹目3-11-5 TEL 048-422-0029
(株)毎日新聞社	〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 TEL 03-3212-3340
誠製本(株)	〒174-0042 東京都板橋区東坂下1-19-5 TEL 03-3967-3952
(株)遊文舎	〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31 TEL 06-6304-9325
(株)読売新聞東京本社	〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1 TEL 03-3242-1111
(株)ライトコミュニケーション	〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町11 岩田ビル5F TEL 03-3251-7571
渡辺印刷(株)	〒152-0031 東京都目黒区中根2-7-1 TEL 03-3718-2161

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援くださる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同くださり、ご支援いただいている各社様をご紹介します。なお、「賛助会員」に関するお問い合わせは、協会事務局までお寄せください。

一般社団法人 大学出版部協会 賛助会員名簿

(株) 朝 日 新 聞 社	〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2 TEL 03-5540-7749
垂 細 垂 印 刷 (株)	〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154 TEL 026-243-4858
(株) ア ベ ル 社	〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408 TEL 03-3235-1360
尼 崎 印 刷 (株)	〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20 TEL 06-6494-1122
(株) A L E	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-6 日本橋ビル4階 TEL 03-5652-8627
王 子 製 紙 (株)	〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5 TEL 03-3563-7072
岡 本 出 版 発 送 (株)	〒353-0001 埼玉県志木市上宗岡3-16-2 TEL 048-471-6291
カクタス・コミュニケーションズ(株)	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-4-1 TUG-Iビル4F TEL 03-6261-2290
(株)加藤文明社印刷所	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-15-6 K-STAGE TEL 03-3261-8281
城 島 印 刷 (株)	〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6 TEL 092-531-7102
(株)紀伊國屋書店	〒153-8504 東京都目黒区下目黒3-7-10 TEL 03-6910-0510
(株) ク イ ッ ク ス	〒456-0004 愛知県名古屋市熱田区桜田町19-20 TEL 052-871-9190
(株) 糸 川 印 刷	〒112-0012 東京都文京区大塚6-9-7 TEL 03-3943-9811
(株)クリムゾンインタラクティブジャパン	〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10 第2電波ビル4F TEL 03-3525-8001
港 北 出 版 印 刷 (株)	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7 TEL 03-5466-2201
三 松 堂 (株)	〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階 TEL 03-6823-5360
三 美 印 刷 (株)	〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-9-8 TEL 03-3803-3131
三 立 工 芸 (株)	〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F TEL 03-3261-5171
三 和 印 刷 (株)	〒381-2226 長野県長野市川中島町今井1822-1 TEL 026-285-2300
信 濃 印 刷 (株)	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11 TEL 03-3237-3601
(株) 渋谷文泉閣	〒380-0804 長野県長野市三輪荒屋1196-7 TEL 026-244-7185
(株) 眞 興 社	〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町19-2 TEL 03-3462-1181
新 日 本 印 刷 (株)	〒162-0801 東京都新宿区山吹町342 TEL 03-3269-3611
(株) 精 興 社	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-9 TEL 03-3293-3021
創 栄 図 書 印 刷 (株)	〒604-0812 京都府京都市中京区高倉通二条上ル天守町766 TEL 075-255-2288



おすすめポイント ①

 専門書など約150万点の品揃え

おすすめポイント ②

全国の  **セブン-イレブン** で、
24時間受取れて、送料**0円**

ネットで注文



店舗で受取り



ナナコ

nanaco

ポイントも貯まってお得!

※一部サービスを実施していない店舗や24時間営業ではない店がございます

セブンネットショッピングはセブン-イレブンの通販サイトです。

<http://7net.omni7.jp>

セブンネット

検索



名古屋外国語大学出版会の本!

魯迅 後期試探
小説 評論 翻訳など読み解く、その思想の集大成。
A5判 ハードカバー 440頁 6,600円+税
中井政喜 著

留学と日本人
大好評! 日本人が海を渡る目的とは何か...冒険の軌跡。
空海からノーベル賞受賞者まで。 A5判 88頁 8,000円+税
丹羽健夫 著

世界が終わる夢を見る
ますます混迷を深める世界。我々は、見捨てられたのか?
ドストエフスキー、村上春樹、タルコフスキーとの対話。
黙過・傲慢から共苦・希望へ。 四六判 288頁 1,500円+税
亀山郁夫 著

名古屋外国語大学出版会

Nagoya University of Foreign Studies Press

〒470-0197 愛知県日進市若崎町竹ノ山57番地

TEL 0561-74-1111 FAX 0561-75-1723

http://www.nufs.ac.jp/

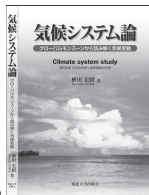
(丸善雄松堂株式会社・発売)

-筑波大学の知の発信-

筑波大学出版会

http://www.press.tsukuba.ac.jp/

ISBN978-4-904074-21-3



植田 宏昭 著

から読み解く
気候変動

気候システム論
グローバルモンスーン

【英語版も発売中】

土地利用でみる
アジアの
都市化と
自然環境



山下 亜紀郎 編著
A5判 3,300円+税

ISBN978-4-904074-39-8

発売: 丸善出版株式会社

TEL:03-3512-3256

FAX:03-3512-3270

http://pub.maruzen.co.jp/

神田外語大学出版局

知っておきたい 環太平洋の言語と文化

神田外語大学=編

太平洋沿岸に暮らす15の国と地域の人々の、興味深い言語表現や暮らしを紹介する。楽しい異文化体験の旅の始まり。

定価=本体 1,000円+税

ベトナム「新経済村」の誕生

岩井 美佐紀・大野 美紀子・大田 省一=著

国策により造成された新経済村。出自が異なる人々が集まるこの村にこれまでにない新たなベトナムが誕生した。本書はその過程を追う。

定価=本体 4,600円+税

アメリカ黒人とキリスト教

—葛藤の歴史とスピリチュアリティの諸相—

黒崎 真=著

アフリカから連れてこられた黒人にとって、キリスト教は自らを解き放つ源泉となりうるのか? アメリカ黒人たちの葛藤の歴史を丹念に追う。

定価=本体 2,800円+税

【発行】 神田外語大学出版局

〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉1-4-1

TEL 043-273-1481 FAX 043-273-1483

http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/press/

【発売】 株式会社ベリかん社

TEL 03-3814-8515 FAX 03-3814-3264

キリスト教・カトリック独和辞典

佐藤朋之(著)

キリスト教および関連領域の専門用語に特化した独和辞典。コンパクトサイズながら、最新のキリスト教研究の解釈を盛り込んだ的確な邦訳による充実の内容。

定価8,300円+税

CLIL 内容言語統合型学習 第3巻 授業と教材

池田真／渡部良典／和泉伸一(共編)

外国語教育で名高い上智大学が実践する、言語教育CLILの授業と教材を紹介。高い読解力・読解力がありながら、実践力になかなか結びつかない日本人のために、教科内容・学術分野の知識と言語能力を同時に向上させる最新メソッドを伝授。

定価1,600円+税

バイオバンクの展開

ライフサイエンスと

法政策
ゲノム新時代に入り、誰にも合わせたフリーサイズから個に応じた最適医療が目前に。その基盤となり、新たな医薬・創薬研究に資するバイオバンクの可能性とは。医科学研究者、医師・法律家から法的・倫理的・社会的な観点から、ヒト組織研究のあり方を徹底的に検討する。

人間の尊厳と
医学研究と
定価2,400円+税

〈発行〉 Sophia University Press 上智大学出版

http://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/

publication/SUP

〈発売・注文〉 〒136-8575 東京都江東区新木場1-18-11

ぎょうせい TEL:0120-953-431 FAX:0120-953-495



表紙写真：『平生四柱吉凶訣』
(東京大学附属図書館アジア研究図書館所蔵)

朝鮮で作成された庶民向けの占術「唐四柱」による古い本と見られる。
(19世紀末～20世紀初めの成立と推定。)
素朴な彩色絵が豊富に入っており、
朝鮮における民衆の信仰と民画の
在り方を伝えてくれる。

本資料は東京大学新図書館計画における
「アジア研究図書館」構築のために発足した
研究部門U-PARLが2015年に購入したもの。
(資料整理中のため、現在のところ非公開)

大学出版 109号 (2017年冬)
2017年1月1日発行
頒価 100円(〒共)

発行所：一般社団法人 大学出版部協会
ISSN 0913-3305
振替 00170-8-389131

〒102-0073
東京都千代田区九段北1丁目14番13号
メゾン 萬六403 号室
TEL 03-3511-2091 FAX 03-3511-2092
E-mail: mail@ajup-net.com
URL: <http://www.ajup-net.com/>

表紙デザイン：阿部卓也

一般社団法人 大学出版部協会 加盟出版部一覧

■ 北海道大学出版会

〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
北海道大学構内
TEL 011-747-2308 FAX 011-736-8605

■ 弘前大学出版会

〒036-8560 弘前市文京町1番地
弘前大学附属図書館内
TEL 0172-39-3168 FAX 0172-39-3171

■ 東北大学出版会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学構内
TEL 022-214-2777 FAX 022-214-2778

■ 流通経済大学出版会

〒301-8555 龍ヶ崎市府平畑120
TEL 0297-60-1167 FAX 0297-60-1165

■ 聖学院大学出版会

〒362-8585 上尾市戸崎1-1
TEL 048-725-9801 FAX 048-725-0324

■ 聖徳大学出版会

〒271-8555 松戸市岩瀬550
TEL 047-365-1111 FAX 047-363-1401

■ 麗澤大学出版会

〒277-8686 柏市光ヶ丘2-1-1
TEL 04-7173-3331 FAX 04-7173-3154

■ 慶應義塾大学出版会

〒108-8346 港区三田2-19-30
TEL 03-3451-3168 FAX 03-3451-3124

■ 専修大学出版局

〒101-0051 千代田区神田神保町3-10-3
TEL 03-3263-4230 FAX 03-3263-4288

■ 大正大学出版会

〒170-8470 豊島区西巢鴨3-20-1
TEL 03-3918-7311 FAX 03-5394-3038

■ 玉川大学出版部

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940

■ 中央大学出版部

〒192-0393 八王子市東中野742-1
TEL 042-674-2351 FAX 042-674-2354

■ 東京大学出版会

〒153-0041 目黒区駒場4-5-29
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991

■ 東京電機大学出版局

〒101-0047 千代田区内神田1-14-8
TEL 03-5280-3433 FAX 03-5280-3563

■ 法政大学出版局

〒102-0073 千代田区九段北3-2-3
法政大学九段校舎内
TEL 03-5214-5540 FAX 03-5214-5542

■ 武蔵野大学出版会

〒202-8585 西東京市新町1-1-20
武蔵野大学構内
TEL 042-468-3003 FAX 042-468-3004

■ 武蔵野美術大学出版局

〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
TEL 0422-23-0810 FAX 0422-22-8309

■ 明星大学出版部

〒191-8506 日野市程久保2-1-1
TEL 042-591-9979 FAX 042-593-0192

■ 早稲田大学出版部

〒169-0051 新宿区西早稲田1-9-12
TEL 03-3203-1551 FAX 03-3207-0406

■ 関東学院大学出版会

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL 045-786-5906 FAX 045-785-9572

■ 東海大学出版部

〒259-1292 平塚市北金目4-1-1
TEL 0463-58-7820 FAX 0463-58-7833

■ 名古屋大学出版会

〒464-0814 名古屋市中千種区不老町1
名古屋大学構内
TEL 052-781-5027 FAX 052-781-0697

■ 三重大学出版会

〒514-8507 津市栗真町屋1577
三重大学総合研究棟Ⅱ 3階
TEL 059-232-1356 FAX 059-253-3095

■ 京都大学学術出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69
京都大学吉田南構内
TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190

■ 大阪経済法科大学出版部

〒581-8511 八尾市楽音寺6-10
TEL 072-941-9129 FAX 072-941-9979

■ 大阪大学出版会

〒565-0871 吹田市山田丘2-7
大阪大学ウエストフロント
TEL 06-6877-1614 FAX 06-6877-1617

■ 関西大学出版部

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
TEL 06-6368-0238 FAX 06-6389-5162

■ 関西学院大学出版会

〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL 0798-53-7002 FAX 0798-53-9592

■ 広島大学出版会

〒739-8512 広島市鏡山1-2-2
TEL 082-424-6226 FAX 082-424-6211

■ 九州大学出版会

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-8-34
九州大学産学官連携イノベーションプラザ
305
TEL 092-833-9150 FAX 092-833-9160

■ 東京農業大学出版会(休会)

〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1
TEL 03-5477-2666 FAX 03-5477-2747